【令和５年度全国学力・学習状況調査分析結果】

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立瀬田小学校

調査目的	◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握･分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。 ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。 ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

正答率より

○　今年度は国語科、算数科、児童質問紙で調査が行われました。全国平均値を基に本校の傾向をとらえると、国語科の「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」算数科の「図形」「変化と関係」、「データの活用」の項目が優れています。

○　算数科においては全国より平均正答率が高く、国語科は全国とほぼ同等の結果でした。

●　国語科では、思考力、判断力、表現力を問う問題において平均回答率が全国より低い結果となっています。その中で特に「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」や「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」ことに弱さが見られました。

●　算数科では、「割り算の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考える」ことに弱さが見られました。

質問紙より

○　「自分には、よいところがあると思いますか」や「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人に相談できる」と回答した割合が全国に比べ、とても高いことが分かりました。

○　読書は好きかどうかや学校での授業時間外の読書時間、家庭での読書環境における肯定的評価がとても高いことが分かりました。国語への関心等の評価が高く、読書習慣が良い影響を与えていることが窺えます。

○●「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という設問に対しての評価が高い児童は正答率が高い傾向にありました。

●　全国と比べるとICT機器の使用頻度に関する値がやや低い結果となりました。

【指導の充実に向けて】

□どの教科においても、児童自らが主体的に考え、教材や仲間と対話し、深い学びができるよう努めます。また、カリキュラムマネジメントの視点を大切にし、教科横断的な学習を通して、つけたい力の定着と活用に努めます。

□校内研究を中心に「対話的な学びを通して 深い学びを求める授業づくり」を目指す授業実践に取り組みます。

□意欲を高めたり、見通しをもって学習に臨めたりするように「めあて」を提示し、理解したことや自分の考えの変化、めあての達成度などを「振り返る」活動を充実させます。

□基本的な計算問題や漢字練習に継続的して取り組みます。また、問題を解くだけにとどまらず、計算式が表していることや、漢字の意味などをしっかりと理解し、次の機会に使うことができる学習活動になるよう努めます。

□学習の内容に合わせて効果的なICT活用を行っていきます。

□「あいさつ」「そうじ」「きく」の３つの約束を大切にした取り組みを一層推進し、「自分も人も大切に」する児童の育成に努めます。

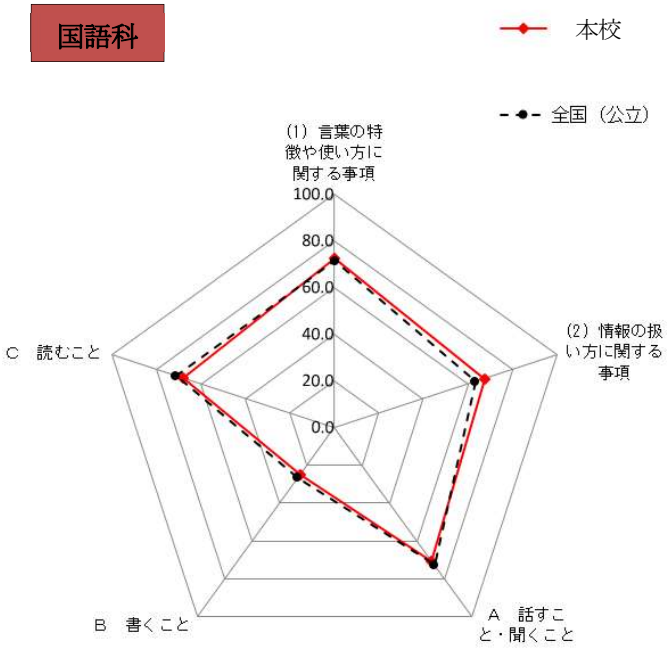
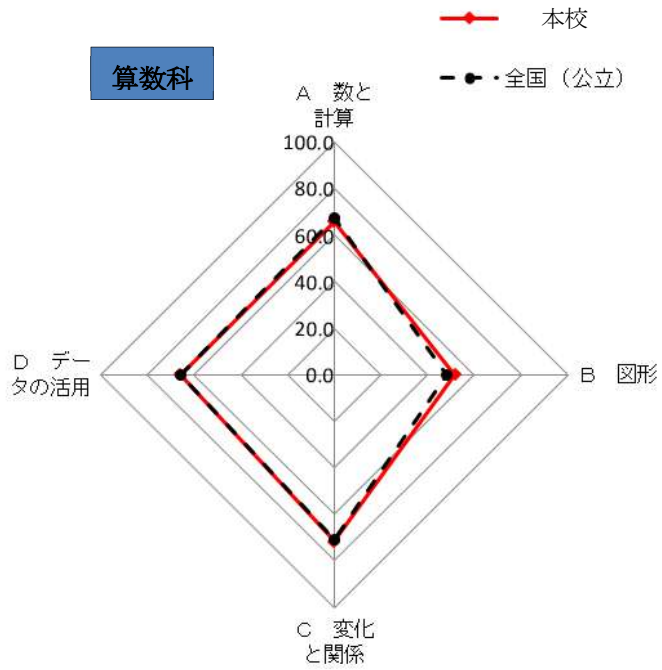
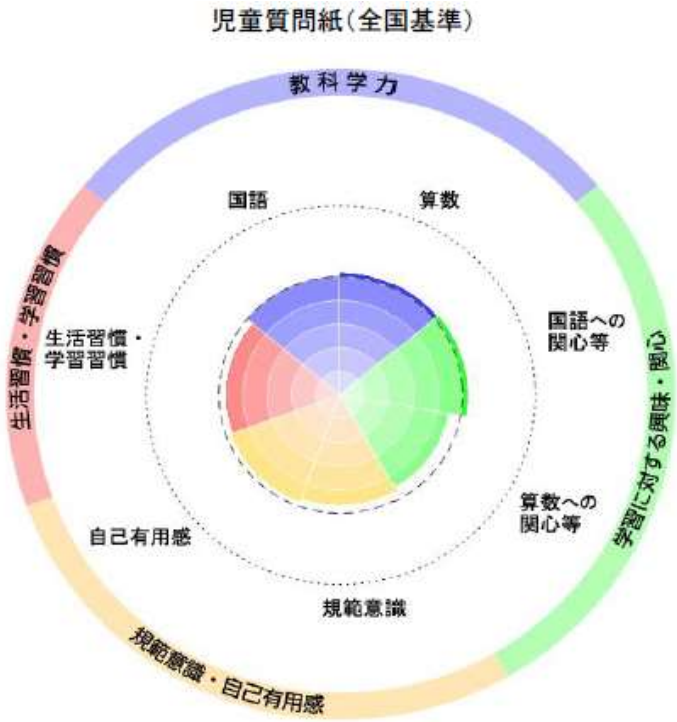
◇強み･弱みレーダーチャート◇

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。

※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。
破線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を検討する項目）と捉えることができます。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞

国語科



算数科